

(1) 臨床現場における薬剤師の科学的探究力の醸成とその実践 ～現場で働く薬剤師による臨床研究活動について～

就実大学薬学部 臨床薬学研究室 教授 赤木晋介

薬剤師には、豊かな人間性と高い倫理観を備え、薬物療法の専門家として医療安全の観点から責任ある行動をとり、患者とその関係者の命と健康的な生活を支えることが求められている。また、医療および薬学の発展に寄与し、社会に貢献する役割も担っている。その実現には、プロフェッショナリズム、全人的な姿勢、生涯学習の継続、科学的探究心、問題解決能力、情報活用能力、薬物治療の実践力、コミュニケーション力、そして医療の社会的役割に対する理解など、多面的な資質・能力の向上が生涯にわたって必要とされる。

これらのうち、臨床で働く薬剤師として研究するためには、特に「科学的探究力」が重要である。これは、薬学的視点から医療・福祉・公衆衛生の課題を抽出し、その解決に向けた科学的思考を培いながら、適切な学術・研究活動を計画・実施し、薬学の発展に貢献する力のことである。近年では、病院や保険薬局などの臨床現場においても、薬剤師が科学的探究を実践することの重要性が再認識されている。

臨床現場における科学的探究の一つに臨床研究がある。これは、薬歴や検査値など所属医療機関における実データを活用し、現場での臨床的疑問（Clinical Question）を研究課題（Research Question）に昇華させて実施されるものである。近年では、いわゆる医療ビッグデータを用いた観察研究を実践する臨床薬剤師も増えている。

本発表では、臨床薬剤師による研究の一例として、ビッグデータを用いた観察研究および院内製剤に関する臨床研究の取り組みを紹介し、現場からの科学的アプローチが薬学の発展に果たす役割について考察する。